

株式の状況

株式数及び株主数 (2021年3月31日現在)	
発行可能株式総数	7,800,000株
発行済株式総数	1,951,900株
株主数	663名

大株主 (2021年3月31日現在)		
	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルゴグラフィックス	990,000	50.7
セイコーインスツル株式会社	408,000	20.9
ジーダット従業員持株会	45,500	2.3
久保田 正明	30,000	1.5
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	20,020	1.0
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	18,800	1.0
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	18,680	1.0
尾崎 敬郎	11,100	0.6
日本証券金融株式会社	9,400	0.5
株式会社エスケーエレクトロニクス	9,000	0.5
大日本印刷株式会社	9,000	0.5

所有者別状況 (2021年3月31日現在)		
所有者区分	持株数(株)	持株比率(%)
金融機関	28,200	1.4
証券会社	21,221	1.1
その他国内法人	1,416,400	72.6
外国法人等	76,000	3.9
個人・その他	379,888	19.5
自己名義株式	30,191	1.5
計	1,951,900	100.0



本社 東京都中央区湊1-1-12 HSB鐵砲洲 Tel: 03-6262-8400 (代)
 当冊子に関するお問合せ先 株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail: corporate.planning1@jedat.co.jp

株主メモ	
上場市場	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
	証券会社等に口座をお持ちの場合
郵送物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内 の店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱 できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。 特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。 (http://www.jedat.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

表紙の絵は、江戸時代に歌川広重が描いた鐵砲洲の情景です。江戸の入り口として日本の全国各地から廻船が集まった歴史あるこの地から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界へ発信いたします。

UD FONT
見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



株式会社ジーダット

証券コード:3841

第19期 株主通信

自2020年4月1日 至2021年3月31日



歌川広重「鐵砲洲真景」国立国会図書館所蔵



JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、
電子産業の発展に貢献したいと考えています。

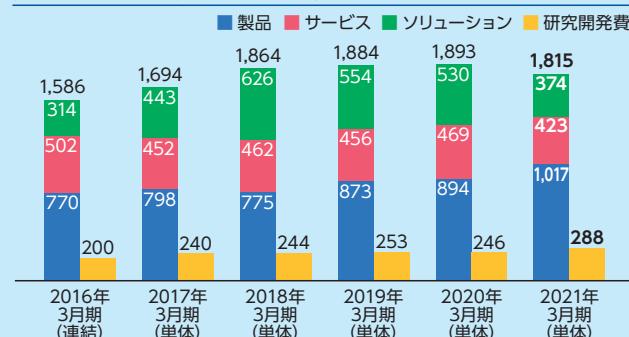
EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、
設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

財務ハイライト

(単位：百万円)

売上高・研究開発費



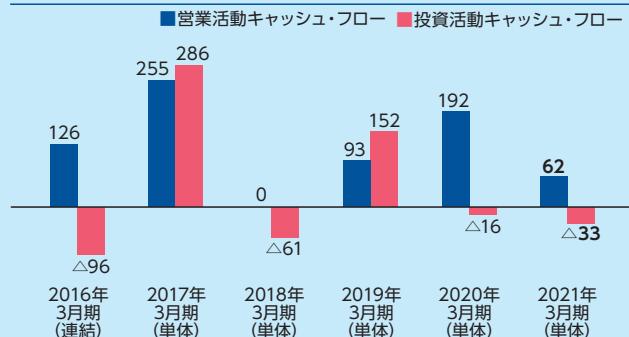
経常利益・(親会社株主に帰属する)当期純利益



総資産・自己資本



キャッシュ・フロー



注 当社は、2017年3月期より非連結決算に移行しております。2016年3月期については、連結決算の数値を記載しております。

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。またこの度の新型コロナウイルスに罹患された方々や困難な状況におられる皆様の一日も早いご回復と、事態の収束を心よりお祈りいたします。

当社は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、従業員並びにお取引先の皆様の健康と安全を第一に様々な対策を実施しております。

当第19期において当社は、主力製品の機能拡張を継続して行ってまいりました。昨年に続き、SX-Meisterの新バージョンでは制約検証機能と匠設計環境を拡張、制約検証機能の高速化を図るとともに、パワーデバイス解析機能を拡張いたしました。また、2020年10月には、「AIを用いたアナログ回路合成研究開発プロジェクト」が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の令和2年度研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）に採択、同12



代表取締役社長

松尾和利

月には東京工業大学とアナログLSIの自動配線の共同研究を開始するなど、AIによる高度なアナログ回路設計自動化環境の実現に向けて、産学連携の研究活動を促進してまいりました。販売促進面におきましては、コロナ禍における新しい手法として各種オンライン販促イベントを多数実施し、積極的な拡

販活動を行ってまいりました。

こうした活動の結果、主に半導体市場に向けた製品売上が伸びたはしましたが、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染拡大に対する懸念等の影響によって、デバイス設計委託の需要が一時的に大きく低下した結果、売上高は前期比4.1%減少し18.1億円、固定費の圧縮及び利益率向上の効果があり、営業利益は前期比3.2%増加し1.3億円となりました。

当社の主要顧客である電子部品業界の状況といたしましては、世界的な「半導体不足」基調により、製造設備関連への投資が大幅に拡大しつつあります。FPD（Flat Panel Display）市場におきましては、最終製品の需要拡大に伴って部品単価が上昇、マイクロLED等の新技術パネルや、異形表示パネルの開発が佳境を迎えております。

このような状況において当社では、昨年採択されたJSTのA-STEPからの支援を基に大学、企業とのオープンイノベーションを更に加速し、主力製品であるSX-Meisterの製品力、販売力の増強に努めてまいります。コロナ時代に即した販促活動といたしまして、昨年ご好評をいただいたオンライン販促セミナーに加え、プレスリリースや、HPの活用による国内外に向けた積極的な情報発信に努め、顧客の拡張を図ってまいります。また、ソリューションビジネスの中でも特にデバイス設計受託関連においては、国内だけでなく海外においても新規顧客の開拓活動を行い、全社一丸となり目標達成に向け邁進いたしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特集 EDA開発本部 プロジェクトマネージャーに聞く

アナログIC全体のパターン設計自動化を実現するACC (Analog Chip Complier)

ACC (Analog Chip Complier, 以下ACC) は、ジータットが2018年6月に発表した、アナログIC全体の機能、性能を実現するためのパターン設計を自動化する製品群です。

ACCによるパターン設計では、アナログICの一部のパターン設計の自動化を実現しておりましたが、更に技術開発を進め、2021年度中にはアナログIC全体のパターン設計を自動化、いよいよ実用化のステージに入っております。

自動化が難しいとされるアナログICの設計において、ジータットのACCがご提供する新しい設計環境とその将来像について、開発者であるEDA開発本部 EDA開発部 プロジェクトマネージャー、轟 祐吉に聞きました。

ACCとは何ですか？

ACCとは、ジータットが開発した、アナログIC全体の機能、性能を実現するためのパターン設計を自動化する製品群の総称です。従来は手動の設計によって行っていた、アナログIC全体のパターン設計を自動化することで、アナログICに関する設計経験が浅い設計者でも、設計制約を守った高品質なパターン設計を短時間で生成できるようになるため、数少ないベテランのアナログ設計者に頼ることなく、高品質なアナログ部品が短納期で提供できるようになります。

「アナログIC」とはどのようなICですか？

「アナログIC」は、人間が自然に取り扱っている音の大きさ、明るさ、長さ、温度、時間などのアナログ量の情報を、アナログ信号として扱えるIC（集積回路）です。アナログICに対して「デジタルIC」

とは、アナログ信号をコンピュータが扱いやすい「0、1」に数値化した情報を、デジタル信号として扱えるIC（集積回路）です。

アナログICは、身近なところで幅広く利用されています。例えば、電源管理用アナログICは、携帯電話やバッテリー駆動システムのバッテリー寿命延長に、車載アナログICは、自動運転や電気自動車、ハイブリッド車等に使われています。

アナログICはなぜ設計が難しいのですか？

デジタルICは「0、1」の論理を扱うことから、ハードウェア言語（Verilog-HDL、VHDL）を使用した論理処理フローをタイミングベースに、比較的容易にプログラム設計ができます。自動化が進んだデジタルICの設計環境では、ツールが設計経験の差を埋めてくれるのです。

それに対してアナログICは、回路を構成する素子（トランジスタ、抵抗、容量）を使用しその性能



を極限まで利用するため、ひとつひとつの素子をシミュレーションで特性を確認しながら、コツコツと設計する必要があります。また、シミュレーションで得た特性を物理的に実現するにはこれらの特性を十分考慮したパターン設計が必要となります。このように、アナログICの設計には考慮しなければならない特性が非常に多くあり、従来の設計ツールでは、設計者個人の経験によるノウハウによって、完成品の品質、パフォーマンスやコストが大きく左右されていました。

アナログICにおけるパターン設計の自動化の利点は何ですか？

ジータットのアナログICパターン設計の自動化ツ

ACCは、主力製品である回路図エディタ（Asca-Advanced）、及びレイアウトエディタ（Ismo-Advanced）にも保守復活、新規購入を含めた相乗効果が見込めることから、新規顧客、既存顧客を含めて2021年度から2023年度までの3年間で約10億円の売上増加を見込んでおります。日本国内における実績を上げた後、海外への拡販を進める予定でおります。

ールの利点は、シミュレーションで得た特性を物理的に実現するための設計制約及び面積を十分に考慮した最適な配置配線結果を短時間で出力することが可能となり、パターン設計の期間が大幅に短縮するため、高品質なアナログ部品が短納期で提供できるようになります。

ACCでは、産学連携による共同研究の成果は生かされていますか？

2021年5月現在、合計5つの大学と共同研究を開始しており、主にアナログICの回路設計、パターン設計のAIを含めたさらなる自動化、パワー解析のための共同研究を推進しています。まだ開始したばかりですべての成果が出てくるまでは2～3年はかかりますが、出てきた成果から順次製品に組み込んでいく予定です。

ACCの今後の展望を聞かせてください

現在は、アナログICの一部のパターン設計の自動化を実現しており、2021年末までには、アナログIC全体のパターン設計を自動化する予定です。アナログIC全体のパターン設計を自動化することによって、アナログ部品が高品質、短納期で提供されるようになります。海外を含む競合他社も成し遂げていないアナログIC設計の自動化を実現して、世界一の製品にしたいと思っております。

● デバイス設計委託需要低下による売上減、固定費削減により利益は増

当事業年度における、当社の主要顧客である電子部品業界の景況は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大や米中貿易摩擦の影響を受けて、一時期厳しい状況に陥っていましたが、リモートワークに関連したPC・データセンター分野及び5G関連分野における根強い需要に加えて、自動車関連分野における急速な需要の立ち上がり等により、一部で製品在庫が逼迫する事態も発生しており、急峻な回復基調に入っています。その影響で、特に製造関連の増強に向けた設備投資が、大幅に伸長しつつあります。しかしながら、この好況の波が設計関連の設備投資にまで到達するには、一定の時間を要することから、当社を取り巻く環境は、今しばらく現状を維持するものと見ており、先行き不透明感は払拭し切れておりません。

このような状況の中当社は、主力製品である「SX-Meister」の開発にリソースを集中し、アナログLSIや

パワーデバイス等向けの新バージョンをリリースしました。また大学等とのオープン・イノベーションを推し進めたことで、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の支援事業に採択されました。国内外の販売促進においては、コロナ禍により各種イベントの中止や移動制限が実施される中、Webを活用した活動に主軸を移しました。またそれに並行して、現在状況を呈している製造装置分野に対する販促活動も強化しました。一時的に需要が低下したデバイス設計受託においては、国内から海外にも向けた販促活動を展開しました。一方固定費は、コロナ禍の影響で販促に関連した費用が低めに推移したことに加えて、更なる費用削減にも努めた結果、大幅に圧縮することができました。

こういった活動の結果、ソリューションの中でもデバイス設計受託関連の売上が低迷したことで、売上

高は18億15百万円（前期比4.1%減）となりました。営業利益は、固定費圧縮及び利益率向上の効果もあって1億34百万円（前期比3.2%増）となりました。

経常利益は、投資事業組合運用益等を計上した結果1億50百万円（前期比11.2%増）となり、当期純利益は1億1百万円（前期比9.0%増）となりました。

● 製品売上は伸長、デバイス設計受託における受注は大幅減

製品及び商品売上高は10億17百万円（前期比13.8%増）となりました。

製品及び商品売上高増加の主な理由は、特に国内において主力製品であるSX-Meisterならびに代理販売品の売上が順調に伸長したことによるものであります。引き続き国内外の市場に向けた積極的な営業活動を展開してまいります。

保守サービス売上高は4億23百万円（前期比9.7%減）となりました。

保守サービス売上高が減少した主な理由は、国内市場の縮小傾向に逆行するべく、積極的な新機能提案活動に加えて保守契約の締結促進活動を実施しましたが、新型コロナウイルス感染拡大や米中貿易摩

擦等の影響も若干受けて、保守契約の減少をカバーし切れなかったことによるものであります。引き続き顧客ニーズに合わせたサポート・サービスの向上に努めてまいります。

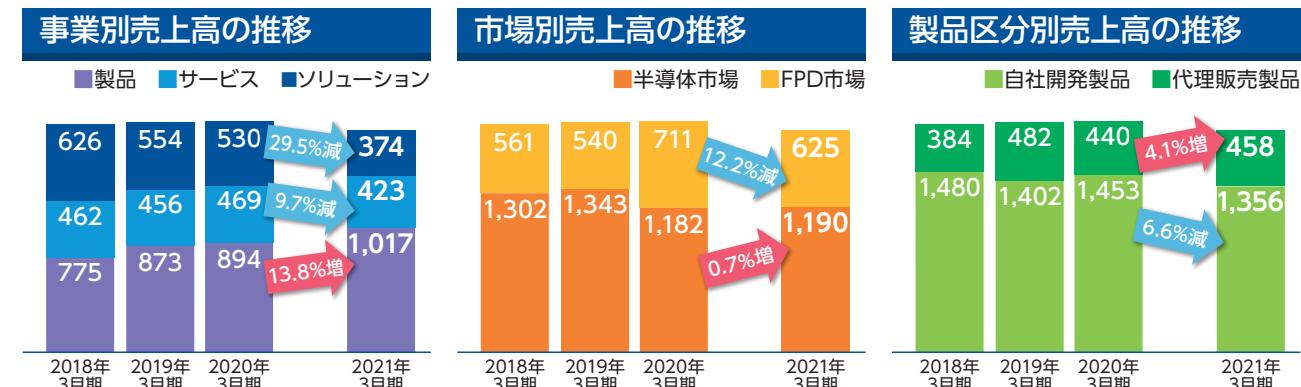
ソリューション売上高は3億74百万円（前期比29.5%減）となりました。

ソリューション売上高が大幅に減少した主な理由は、デバイス設計受託において、新型コロナウイルス感染拡大や米中貿易摩擦等の影響により、国内顧客の受注が一時的に大きく減少したことによるものであります。国内に限定せず海外における新規顧客の開拓にも取り組んでまいります。

(単位：百万円)

	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前期比
売上高	1,864	100.0%	1,884	100.0%	1,893	100.0%	1,815	100.0%	△4.1%
売上総利益	1,126	60.4%	1,114	59.2%	1,097	57.9%	1,136	62.6%	+3.6%
販売費及び一般管理費	1,007	54.0%	998	53.0%	966	51.1%	1,002	55.2%	+3.7%
営業利益	118	6.4%	116	6.2%	130	6.9%	134	7.4%	+3.2%
経常利益	127	6.9%	124	6.6%	135	7.2%	150	8.3%	+11.2%
当期純利益	92	5.0%	88	4.7%	93	4.9%	101	5.6%	+9.0%

(単位：百万円)



貸借対照表

(単位:千円)

科目	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)	科目	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	3,199,440	3,142,409	流動負債	527,471	418,317
※ 現金及び預金	2,720,494	2,713,540	買掛金	40,289	31,692
受取手形	11,012	1,100	未払金	33,314	42,660
電子記録債権	177,725	172,593	未払費用	31,365	31,793
売掛金	210,838	171,793	未払法人税等	34,851	34,205
仕掛品	13,531	3,788	前受金	293,868	189,004
原材料	585	1,330	預り金	8,706	8,574
前渡金	42,360	39,923	賞与引当金	85,075	76,646
前払費用	20,217	20,863	その他	—	3,740
その他	2,675	17,477	固定負債	6,310	6,310
固定資産	197,246	209,808	資産除去債務	6,310	6,310
有形固定資産	41,131	46,258	負債合計	533,781	424,627
無形固定資産	4,701	7,973	純資産の部		
投資その他の資産	151,413	155,577	株主資本	2,862,696	2,927,443
投資有価証券	58,441	79,931	資本金	760,109	760,982
長期前払費用	6,844	2,930	資本剰余金	891,028	891,901
繰延税金資産	37,559	33,976	利益剰余金	1,240,049	1,303,106
その他	48,568	38,738	自己株式	△ 28,491	△ 28,547
資産合計	3,396,686	3,352,218	新株予約権	208	147
			純資産合計	2,862,905	2,927,591
			負債純資産合計	3,396,686	3,352,218

※「現金及び現金同等物の期末残高」と貸借対照表「現金及び預金」との差異は、主に預入期間3ヶ月を超える定期預金9億円によるものであります。

損益計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	当事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)
売上高	1,893,913	1,815,440
売上原価	796,903	678,586
売上総利益	1,097,009	1,136,854
販売費及び一般管理費	966,915	1,002,643
営業利益	130,094	134,210
営業外収益	7,712	17,351
営業外費用	2,358	890
経常利益	135,449	150,671
税引前当期純利益	135,449	150,671
法人税、住民税及び事業税	41,328	45,630
法人税等調整額	1,068	3,583
当期純利益	93,051	101,457

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	当事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	192,550	62,727
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,521	△33,664
財務活動によるキャッシュ・フロー	△38,481	△36,771
現金及び現金同等物に係る換算差額	△261	283
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	137,285	△7,426
現金及び現金同等物の期首残高	1,656,000	1,793,286
※ 現金及び現金同等物の期末残高	1,793,286	1,785,860

1株当たり情報

1株当たり純資産	1,523円35銭
1株当たり当期純利益	52円81銭

株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本								新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
		資本 準備金	その他資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計				
2020年4月1日残高	760,109	890,660	368	891,028	1,240,049	1,240,049	△28,491	2,862,696	208	2,862,905
当期変動額										
新株予約権の行使	872	872		872				1,745	△61	1,684
剰余金の配当					△38,401	△38,401		△38,401		△38,401
当期純利益					101,457	101,457		101,457		101,457
自己株式の取得							△55	△55		△55
当期変動額合計	872	872	—	872	63,056	63,056	△55	64,746	△61	64,685
2021年3月31日残高	760,982	891,533	368	891,901	1,303,106	1,303,106	△28,547	2,927,443	147	2,927,591

トピックス |

● AIを用いたアナログ回路合成研究開発プロジェクトがA-STEPに採択

2020年10月、ジーダットは、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の令和2年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 産学共同 (本格型) に採択されました。

この研究開発プロジェクトは、ジーダットのセル単位にアナログ回路設計を行う知財と、群馬大学 高井准教授のAIをアナログ回路設計に応用する知財を組み合わせ、これに群馬大学と東京大学のアナログ回路設計での経験・知見を組み込むことにより、AIによる高度なアナログ回路設計自動化環境を世界で初めて実現するものです。この研究により、アナログ回路設計の効率が大幅に向上し、Society5.0を支える技術となるAI/5G/IoT/車載/センサー等の製品の短期開発・コスト削減・多品種少量生産の実現を目指します。

課題：AIによる回路トポロジー合成を実現する高度なアナログ回路設計プラットフォームの開発

期間：2020年12月1日～2025年3月31日 (4年4ヶ月)

共同研究機関：

群馬大学 理工学府 電子情報部門 准教授 高井 伸和

群馬大学 理工学府 電子情報部門 教授 小林 春夫

群馬大学 理工学府 電子情報部門 助教 桑名 杏奈

東京大学 大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター 准教授 飯塚 哲也

● 群馬大学小林・桑名研究室との共同研究論文が、TJCAS 2020でBest Student Presentation Awardを受賞

ジーダットは2019年から、群馬大学大学院理工学府 電子情報部門 小林 春夫教授、桑名 杏奈助教とアナログLSI設計手法の研究を共同で行っています。

2020年11月、新たな回路構造による温度不感型MOS定電流源の効果が実証され、LSIの信頼性を向上させる研究成果が、Best Student Presentation Awardを受賞いたしました。

学会名：TJCAS 2020 (Taiwan and Japan Conference on Circuits and Systems)

題名：“Feedback Operation Analysis of Temperature Insensitive MOS Reference Current Source with Self Bias Circuit”

本研究では、ジーダットがこの回路を標準的なセルとしてモデル化し、さらに科学技術振興機構 (JST) の令和2年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 産学共同 (本格型) に採択された“AIによる回路トポロジー合成を実現する高度なアナログ回路設計プラットフォームの開発”に本成果を取り込みAIによる高度なアナログ回路設計自動化環境の構築を進めます。

● 東京工業大学とアナログICの自動配線の共同研究を開始

2020年12月、ジーダットは、東京工業大学 工学院 高橋 篤司教授と、アナログICにおけるパターン設計の自動化に関する研究を開始しました。

高橋教授は、1991年以来東京工業大学、UCLA、大阪大学で、集積回路設計自動化に関して、アルゴリズム理論・グラフ理論をベースにパターン設計を中心に研究されています。本共同研究では、現状人手設計に頼っているアナログICの配線設計を実用可能なレベルで自動化することで、設計効率の向上を図ることを目的としています。アナログIC及びブロック内の配線をターゲットに、より人手に近い品質の配線結果を得るための自動化アルゴリズム及び手法を研究し、その成果をSX-Meisterへ組み込み、自動配線機能の大幅な性能・品質向上を目指します。

会社概要/役員 |

(2021年6月16日現在)

会社概要

商号 株式会社ジーダット (Jedat Inc.)

所在地 〒104-0043 東京都中央区湊1-1-12
HSB鐵砲洲

代表者 代表取締役社長 松尾 和利

営業開始 平成16年2月2日

資本金 760,982,760円

事業内容 電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング・半導体集積回路の設計受託

役員

代表取締役 松尾 和利

取締役 田口 康弘

取締役 藤澤 義磨

取締役 長谷部 邦雄

社外取締役 瀧沢 観

社外取締役 渥美 滋

監査役 (常勤) 小川 泰

社外監査役 藤田 鋼一

社外監査役 日比野 好恵